

目次

第一章 放浪

夜汽車、そして松江	5
広島・流川	8
大阪・「ミス布施」	11
豊田・名古屋・桃ノ木町	14
キッチン・アントニオ	16
新宿美術研究所	20
木炭紙とパン	23
新宿・歌舞伎町	26
赤坂・ミカド・銀座の画廊	32
美術研究所の友人	34
胃穿孔、そしてポナール	40
リアリズム、シュールリアリズム	45
下北沢・スーチン	50
裏日本への旅・糸魚川	56

モデル・そして恋

駆け落ち・高田まで

高円寺、そして別れ

明大前・高橋和巳

大糸線・花婿のいない披露宴

麻生三郎のアトリエ

牛久・八・四坪の家

紀伊國屋ホールの楽屋

初めての個展、そして出会い

現代画廊と土浦の画廊

小名浜・花火の日

京都・「おばあさんの三十五日」

福井・冬の裏日本

第二章 人

気まぐれ美術館	121
新しい出会いと松戸のアパート	126

金沢・そして西成へ	130
鶴岡・酒田・五能線・北海道	138
ジャンジャン横丁と足立第六酒店	146
梅田画廊と長谷川利行展	150
田部直枝と柏崎の病院	155
鶏川村折居、雪の中の恐ろしさ	162
かすみ草の絵と父の告白	169
洲之内徹との決別と父の訪れ	175
曾宮一念の声、そして水海道	184
水海道での生活	190
西成への逃亡	203
極北の地点から	211
夏の日の出会いと元三大師	217
水海道の展覧会と父との諍い	223
石の町・真壁町と山形村	230
新松戸の新聞店と南千住	237
汐入のアパートと泪橋	248
日雇い手帳と大利根、コンパ	253

山谷の住人たちと淀屋酒店	260
山谷争議団、山谷の人々	264
雨の日の一冊の本、木村東介	273
第三章 絵	
印姿羅とブギヤッテイ	283
一枚のハガキと贖作事件	290
柘美術店と留置所	296
小畑延子との出会い	302
豊田、神戸、新潟、ホテル築岬	306
はじめての画集とアート・紀元	315
原田芳雄との出会い、そして秋田	319
水のある町へ	330
母の生い立ちとその死	333
父のこと、兄のこと	340
下町の夫婦展と鈴木時治展	345
再び西成へ	355